

「イノベーション・エコシステムの実現をアフリカと共に」(提言要旨)

背景

- SDGsを念頭に置いた持続可能な形での成長を後押しし、科学技術・イノベーション(STI)の力を最大限生かすべきとの考え方が一層重要
- 「自由で開かれたインド太平洋」の概念に基づき共に行動するパートナーシップ重視の姿勢の必要性

進展

- 「人材育成を通じたアフリカの科学技術水準の向上」(前回提言1)
- エジプト・日本科学技術大学(E-JUST), ジョモ・ケニヤッタ農工大学(ケニア)はアフリカの研究開発において中心的な役割を果たし、日・アフリカ間及びアフリカ域内での研究者交流・ネットワークの強化に大きく貢献
 - 「ABEイニシアティブ」により産業発展, 工業化, 国づくりを支える人材の育成が着実に進展
 - 理数科教育支援(基礎教育)の進展

課題

- 「研究開発の成果の社会全体への還元」(前回提言2)
- 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)等の研究開発成果の社会実装化
 - 日本発の技術・アイデアに加え, 現地発の課題に現地パートナーと共にイノベティブな取組を推進
 - 情報通信技術(ICT)を活用した産業のスマート化及び同分野での人材育成が必要

提言の方向性

- **SDGs, STI, SATREPS, Society 5.0***の4つの「S」がキーワード
 - **日・アフリカでイノベーションが自律的・持続的に創出されるイノベーション・エコシステムの確立を目指す**
- ※日本が科学技術基本計画の中で「目指すべき未来像」として提唱。サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより, 経済発展と社会的課題の解決を両立する, 人間中心の社会。

提言1: STIを活用したSDGsを含む社会課題解決に向けた支援

- (1) SDGs達成に向けたSTIロードマップ作成への貢献
- ◆ 日本が国際社会に基本的考え方やモデルを示し, アフリカ諸国のSTIロードマップの策定を後押し
- (2) オープン・イノベーションの推進
- ◆ 国際機関, 学術機関, 企業等, 既存のネットワークやオープン・イノベーション・プラットフォームとの連携等を通じた協業・共創による課題解決
- (3) SATREPSの更なる強化
- ◆ 社会実装や他国・地域への成果の展開・普及等を実現

提言2: STI人材の育成の継続と拡充

- (1) 日・アフリカ研究者の交流・育成
- ◆ アフリカ15か国に約20か所存在する日本の大学・研究支援機関の拠点やネットワークの強化・拡充
 - ◆ 政府及び大学間のハイレベルでの対話機会の創出
 - ◆ 「Scientist Diplomat」の活用
- (2) ABEイニシアティブの継続, 官民連携による投資の促進, 雇用創出への取組
- (3) ICT分野の人材育成の継続・強化

提言3: ICTの活用強化を通じたSTIの成果の社会実装

- ◆ SATREPS等の研究開発にICTを積極的に活用し, 科学技術協力と開発協力の相乗効果を実現することによる社会実装の促進
- ◆ 衛星等のデータの活用による社会課題解決への取組
- ◆ 諸科学の共通言語である数学の教育を通じたSTI人材の育成
- ◆ Society 5.0の実現を目指す日本ならではの, アフリカとのイコール・パートナーシップによる連携